

## 第10回双葉町放射線量等検証委員会 議事要旨

日 時：令和4年2月24日（木） 13：22～14：38

場 所：双葉町産業交流センター 中会議室

### 1 開会（略）

### 2 議事

(1) 双葉町における除染前後の線量等について

(2) 調査結果について

- 資料2に基づき、環境省から説明。
- 資料3に基づき、事務局から説明。

(主な意見)

- 資料3の中で、住民は地表に近いとすごい線量が高いのじゃないかというイメージを持っている可能性があるため、同じ箇所の地表から100cmと1cmの比率を集計したデータを公表することで、1桁も線量が違うことないということをご理解いただけるような根拠になるのではないかと思います。
- 阿武隈山系特有で、えぐねや杉では、木の特性上、上のほうが線量は高い。今までは地表のことだけを対策してきたが、今後は、木の上の線量のことも含めて少しフォローアップをしていくことが必要だと思ふ。
- 線量を下げる目的は、被ばく線量をいかに下げるかということが目的である。行動や住宅の配置等によって、同じようにならず、何倍も違ったりする。Dシャトルで測定すれば、短時間でもある程度被ばくが高いところはわかる。その原因を探ってフォローしながら少しずつ被ばく線量を下げる努力をしていく必要がある。除染終わったからもう大丈夫ですよということには、一概には言い切れないと思ふ。
- 基本的に健康に影響するかどうかということが基本なのです。UNSCEARの評価では、1Fで働いていた人たちを含めて、今後健康に影響するようなことはないだろうと公表されている。
- リスコミの話もいろんな話をしてあげることが大事。そのためには1回だけでは伝わらない。何回も行ってお茶飲んだり話したりして、そういう意味のリスコミが大事である。
- 長崎大学と双葉町が連携協定を締結し、長崎大学のスタッフが必要な相談、リスコミ含めて対応を始めているので、活用できる。

- 例えば山菜を採ってきたときに線量を測定して、食べたらのくらい被ばくするのかというようなことをリスクミの中で取り上げることができる。
  - 食品検査で言うと、普通の測定では、NaI 測定で十分だと思う。
  - ガンマカメラは、除染の前後で測定した結果を住民に公開すると、リスクミをするときにいい材料になっていた。少し線量が高いようなところで、どこが高いのだろうと  
いうのを住民と探して、そこのフォローアップ除染をやってもらうなど行っていた。  
住民の方は理解に役立ったと感じている。
- 3 その他（略）
  - 4 閉会（略）